［研究所記事］

1．本年度の研究所職員

所　長	教　授	工藤	茂
運営委員	教　授	後藤	重巳
〃	教　授	松本	篤
〃	教　授	森	正己
研究員	教　授	仲嶺	真信
〃	教　授	利光	正文
〃	助教授	友永	植
〃	助教授	飯沼	賢司
〃	講　師	坂口	淳志

2．研究所研究講演会（公開講座）

日　時　1996年10月16日（水）
講　演　日本と東南アジアー異文化交流史の試みー
講　師　京都大学東南アジア研究センター教授　加藤　剛先生
場　所　別府大学３号館ホール

3．研究会の開催

今年度は利光研究員が中心になり、文学部研究出版委員会と共催の下記研究会を行った。

第１回　５月22日　（発表者）　友永植「神になった英傑関羽ー正史『三国志』と小説『三国志演義』ー」（於420番教室）

第２回　７月３日　（発表者）　田村憲美「死亡動向からみた日本中世社会論のために」（於511会議室）

第３回　９月25日　（発表者）　瀬戸口昌也「日本人の死生観についてー脳死・臓器移植と日本人ー」（於511会議室）

第４回　11月27日　（発表者）　河野豊「メランコリー観念の歴史と変遷」（於511会議室）

4．記　事

(1)アジア歴史文化研究所の名称の変更

４月24日と５月22日の運営委員会において、研究所の名称についてこのままでいいかどうかの検討を行った。というのも、当市に立命館アジア太平洋大学の設立が予定されるようになったからである。その結果もしもそういうことになる場合には、下記のように名称変更をしてもよいのではないか、という結論に達した。

『異文化交流研究センター』

(2)国際交流・韓国姉妹校訪問

平成８年10月10日（木）～10月13日（日）大学の国際交流の一環として、韓国姉妹校（信一専門大学・大邱暁星カトリック大学）訪問が下記の通り行われ、当研究所からも工藤茂研究所長が訪問団の一員として参加した。

訪問団　　西村、工藤、安東、衛藤、上田、篠塚、浅田。

日程

10月10日（木）

大学～福岡空港～韓国・釜山（釜山および釜山港見学）～大邱

10月11日（金）

信一専門大学、大邱暁星カトリック大学校表敬訪問

10月12日（土）

慶州の史跡見学

10月13日（日）

大邱～ソウル金浦空港～大分空港～帰校

釜山港

たいそう活気に満ちていた。そこの市場に出店している店、町に並ぶ商店、ひとびとに韓国のエネルギーを感じた。それは日本から失われつつあるもののようであった。

信一専門大学

金基澤学長、崔桂浩教務部長、日語科長、他幹部教職員と教育問題、セミナーを含む交流、大学の現状等について懇談した。この専門大学は、６万坪の校地に大型校舎が建設され、施設設備も整っており、大学改革の指定校で、地域開発と大学のビジョンについても研究課題としている。来年は50周年を迎え学生定員を3000名から6000名に増員する予定であり、韓国内で本年度優秀四大学の一つとして指定された。

朝鮮半島での南北の緊張関係は、韓国の商工業を刺激して造船や半導体（ＩＣ）等、世界第一を生み出している。学長の交流に対する積極性から本学への留学生数の増加が期待される。

大邱暁星カトリック大学校

学長室において、大邱暁星カトリック大学校学長、副学長、国際部長、学生部長、教務部長らと教育、文化交流について懇談した。わけても、別府大学セミナーと短期留学の件が話題となった。

この大学の所在地は大学集中地域にあり、交通事情が極めて悪く、８台のスクールバスと他の乗り物では、混乱を来しているとのことであった。11000人の学生の交通アクセスは限界の観がある。

全体懇談会終了後、各学科別交流、懇談に入った。

大邱暁星カトリック大学校・外国語大学日語日文学科において工藤茂所長が「日本の近代化と近代文学」と題して講義。その後、安東国文学科学科長、工藤教授は外国語大学日語日文学科の先生方と懇談、上田英文学科学科長は英文系コースの先生方と英語教育、指導法について懇談、西村学長、衛藤学生部長、篠塚美学美術史学科学科長、浅田大学事務局長は、同校の美術大学を訪問した。

以上の懇談の後、同校の博物館を見学した。施設、設備、収蔵品ともに充実しており、たいそう参考になった。

慶　州

古代、新羅の都であった慶州を尋ねる。

最初に吐含山石窟庵に行った。新羅の宰相金大城が751年に仏国寺の拡張のために建設した

石仏寺の一部が石窟庵だという。中には統一新羅時代の仏教美術の代表的な石仏といわれる仏像が安置されていた。

次に仏国寺に参拝する。仏国寺は新羅の法興王時代の531 年の創建。吐岩山の中腹に広がっている寺院である。案内によると1953年壬辰の乱の戦火によって石造建築物を除いて全焼し、現在の建物はその後数次ににわたって再建されたものだという。寺院は回廊によって東西に分かれており、紫霞門につづく東側には、北から講堂、大雄殿、釈迦塔、多宝塔、十六羅漢座像、舎利塔が配され、西側には極楽殿、毘盧殿が建っている。その境内をゆっくり参観した。

最後に訪れたのは、古墳公園であった。慶州には古墳が200 基ほどあり、そのうち保存の良い古墳20基を囲んで公園にしたのが、古墳公園だという。この中に天馬塚があった。この古墳は1973年に偶然に発見された。中から１万点を越える副葬品と、白樺の皮に五色の天馬を描いた鞍掛が見付かって、それにちなんで天馬塚と呼ばれている。５～６世紀の王陵だという。その中に入って古墳の構造などを見学した。この古墳の出土品は国立慶州博物館に展示されており、古墳の中の展示品はレプリカであった。

別府大学アジア歴史文化研究所規則

（目　　的）

第１条　別府大学アジア歴史文化研究所（以下「研究所」という）は，アジア諸地域の人文・社会・自然に関する調査研究を推進するとともに，関連機関と交流を深め，併せて別府大学における研究と教育の発展に寄与することを目的とする．

（事　　業）

第２条　研究所は，その事業を達成するために，次の事業を行う．

１．調査研究の推進

２．関連機関との交流

３．各種資料の収集・整理・保管並びにその利用

４．研究成果等刊行物の発行

５．研究会・講座等の開催

６．その他研究所の目的に添う事業

（運　　営）

第３条　研究所に，研究所長・研究員および事務職員をおく．

２．研究所長は，別府大学教授会の議を経て，学長が任命する．その任期は２年とし，再任をさまたげない．

３．研究所長は，研究所を統轄する．

４．研究員は，別府大学教授会の議を経て，学長が委嘱する．その任期は２年とし，再任を妨げない．

５．研究員は，研究所長のもとで，第２条に定める調査及び研究の業務を分担する．

６．事務職員は，研究所長のもとで，第２条に定める事業を遂行するための支援業務を分担する．

（審　　議）

第４条　研究所に，運営委員会を設ける．

２．運営委員会は，研究所の運営に関する事項について審議する．

３．運営委員会に関する規定は，別に定める．

（研 究 生）

第５条　研究所に，研究生を置くことができる．

２．研究生に関する事項は，別府大学文学部研究生規定を準用する．

付則　この規則は，昭和56年４月１日から施行する．

別府大学アジア歴史文化研究所運営委員会規程

第１条　別府大学アジア歴史文化研究所規則第４条に定める研究所運営委員会の構成並びにその業務は，この規定による．

第２条　別府大学アジア歴史文化研究所運営委員会（以下「委員会」という）は，次に掲げる者をもって構成される．

１．研究所長および研究員若干名

２．別府大学教授会の議を経て，学長により委嘱される専任教員若干名

第３条　委員会議長には，研究所長があたる．

第４条　委員会は，研究所の目的に沿って，その正常な運営と充実を図るため，次の事項を審議する．

１．調査研究の推進

２．関連機関との交流

３．各種資料の収集・整理・保管並びにその利用

４．研究成果等刊行物の発行

５．研究会・講座等の開催

６．予算の編成並びに運用

７．施設設備の設置並びに管理運用

８．将来の計画

９．研究生

10．その他研究所に関する事項

第５条　委員会は，研究所長がこれを招集する．

付則　この規定は，昭和56年４月１日から施行する．